

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：23903
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22659402
 研究課題名（和文） 救急医療の社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた救急看護師教育システムの開発
 研究課題名（英文） Development of an education system to improve emergency nurses' capability to cope with social and ethical issues in emergency care
 研究代表者
 明石 恵子（AKASHI KEIKO）
 名古屋市立大学・看護学部・教授
 研究者番号：20231805

研究成果の概要（和文）：救急看護師や救急救命士は、救急車の不適切利用、救急医療施設の傷病者受入拒否、身元不明患者や老健施設からの搬送患者の治療方針の判断などの場面で社会的・倫理的な問題を感じ、その対応に苦慮している実態が明らかになった。また、社会的・倫理的な問題についての多職種による事例検討会は、そのような問題への対処能力向上に有効であり、救急看護師の効果的な教育の場になり得ると考えられた。

研究成果の概要（英文）：It has come to light that emergency nurses and paramedics struggle to come to terms with the social and ethical issues surrounding inappropriate use of ambulances, rejection of the sick and injured by emergency medical facilities, and treatment policy toward unidentified patients and patients brought in from healthcare facilities for the elderly. Since knowledge of multidisciplinary social and ethics case studies can improve coping skills for various social and ethical problems, we think a such case study meetings will be a useful educational tool to build coping capability among emergency nurses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,100,000	0	1,100,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	480,000	3,180,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：救急医療・救急看護師教育・倫理的問題

1. 研究開始当初の背景

日本は初期・二次・三次という階層的な救急医療機関の整備がなされ、全国自治体における救急業務の実施率は 98.0%（2008 年 4 月 1 日現在）と世界に誇る救急医療体制を構築してきた。しかし、救急医療の現場では、救急医療施設の地域偏在、医療レベルの施設格差、医療施設の減少、専従スタッフの不足、

医療従事者間の連携不足、救急患者の受け入れ率低下、救急搬送時間の延長、市民の安易な救急車の利用など、大きな社会問題が生じている。そしてこれらは医療従事者の葛藤や苦慮、ひいては疲弊、離職を引き起こす原因になりうる。さらに、医療行為に対する患者本人の意思が確認できない、処置が優先され人としての尊厳やプライバシー保護が侵さ

れやすいといった状況は、救急医療チームの中で特に調整的な役割が期待される看護師を悩ませている。そのため救急看護師には、緊急かつ重篤な病態とその処置に関する高度な判断力・実践力はもちろんのこと、救急患者の倫理的問題や法的問題に適切に対応できる能力が求められる。しかし、これまで看護師への教育は救急患者の身体的、心理的な問題に対する専門的な知識と技術に重点がおかれ、倫理や社会的な側面に関する教育が不十分だったと考えられる。

2. 研究の目的

- (1) 救急医療を取り巻く社会的な問題とその要因を明らかにし、解決のための方策を探る。
- (2) 倫理を主とした社会的な視点から救急看護師が果たすべき役割を明らかにする。
- (3) 救急看護師の倫理的な対応能力を向上させるための教育システムを開発・評価する。

3. 研究の方法

(1) 実態調査

① 医療施設の看護部門責任者に対する質問紙調査

対象：全国の救急告示病院・休日夜間急患センター・救命救急センター合計 1000 ヶ所の救急看護部門責任者。

調査項目：所在地、施設の概要、救急部門の位置付け、組織体系、医療従事者の数、救急患者受け入れ数と受け入れ率、看護師から見た他の医療機関との連携の実際、など

調査手順：対象施設の施設長を通して、救急部門の看護責任者に回答を依頼する。

分析方法：各項目の記述統計を行い、医療施設の特徴別に比較する。

② 地方自治体消防本部の救急救命士に対する質問紙調査

対象：全国 802 の消防本部が各々管轄する消防署に所属し、現在救急活動に従事している救急救命士各 1 名の合計 802 名

調査項目：地域の概要、救急業務の実施状況、救急搬送件数・搬送人数・搬送時間などの推移、コールトリアージの実態、救急車の利用に関する啓蒙活動、など

調査手順：対象自治体の消防署長を通して、救急搬送業務に従事している救急救命士に回答を依頼する。

分析方法：各項目の記述統計を行い、地域の特徴別に比較する

③ 医療従事者に対する面接調査

対象：スノーボール・サンプリングによって抽出された東海地方（愛知・岐阜・三重・静岡）の看護師と救急救命士で、本研究への参加に同意する者

調査方法：「自分の地域における救急医療の問題」および「救急医療現場での倫理的問

題」についてのフォーカスグループインタビュー

分析方法：インタビュー内容から逐語録を作成し、質的帰納的に分析する。

(2) 救急看護師教育システムの一つとしての研究会の開催と評価

① 社会的・倫理的問題をもつ事例への対応方法の議論を目的とした研究会の開催

対象：救急に従事する看護師、医師、救急救命士、その他関連職種で、本研究会に関心のある者

方法：社会的・倫理的問題があり、対応に難渋した事例を匿名化して取り上げ、スモールグループディスカッションによって事例の問題の存在や対応方法を議論し、最後に、法律や倫理の専門家の助言を得る。

② 研究会による効果の検討

対象：上記研究会への参加者

方法：同意を得て、無記名の参加者アンケートを実施する。

4. 研究成果

(1) 実態調査結果

① 医療施設の救急看護部門責任者を対象とした調査から、社会的な問題や倫理的問題、クレームへの患者・家族対応に苦慮している現実が明らかになった。

② 地方自治体消防本部の救急救命士を対象とした調査から、救急車の利用、患者受け入れ要請への対応、傷病者や家族の接遇への対応に苦慮していることが明らかになった。

③ 医療従事者に対する面接調査から、救急救命士は、救急車の適正利用、病院選定と搬送、病院に対する受け入れ要請の連絡、救急救命士の処置範囲などに問題を感じていた。一方看護師は、施設間・地域間の差や担当医の専門領域によって傷病者受け入れの判断が異なることへのジレンマ、受け入れ拒否に伴う傷病者への影響、身元不明患者や老健施設からの搬送患者における治療方針の判断などに問題を感じていた。これらから救急救命士も、救急看護師も、救急搬送患者の受け入れに伴う問題を認識していることが明らかになった。

(2) 研究会の開催と評価

① 社会的・倫理的問題をもつ事例への対応方法の議論を目的とした研究会を 3 年間で 9 回開催した。検討テーマは次の通りであった。

- ・CPA 患者の家族のこころのケア
- ・モラルハラスメントを受け自殺企図で救急搬送された高齢患者
- ・救急要請を繰り返した後に自殺企図に至った患者
- ・急性心筋梗塞により重症心不全患者の治療に対する意思決定
- ・自殺企図の患者が 帰宅する際の対応

- ・救急外来で虐待が疑われ対応に苦慮した事例
- ・治療の意思確認ができない救急患者の終末期ケア
- ・緊急手術・治療の継続を望まない急性腹部大動脈閉鎖患者の家族
- ・救急搬送された患者の薬物検査の適応

②参加者アンケートの結果、参加者の多くは看護師であったが、医師や救急救命士の参加もあり、事例を通して学ぶという方略は、参加者にとって有意義であり、このような研究会の継続開催の必要性が明らかになった。

(3)今後の課題

救急医療の現場では、社会的な問題や倫理的な問題への対応に苦慮している実態があり、救急看護師には倫理的な問題への対応能力が求められている。そのような状況において、他職種による救急搬送患者の事例検討は、それを高めるための効果的な教育の場となり得ると考えられ、その必要性が明らかになった。しかし、多様な勤務形態のなかで参加が限られるという問題もある。今後は、情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）を活用した新たな教育システムを構築していく必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- ①明石恵子, 白井千津, 伊藤稔子, 大原美佳, 小倉久美子, 奥田晃子, 笠原真弓, 角由美子, 山口弘子, 前田貴彦, 森木ゆう子：東海救急看護研究会活動報告, 名古屋市立大学看護学部紀要, 査読無, 12:73-77, 2013

〔学会発表〕（計11件）

- ①小倉久美子, 明石恵子, 白井千津, 東海救急看護研究会：交流セッション「救急医療現場における倫理的・法的問題解決への対応能力向上に向けた方略－事例で考えよう－学会交流第3弾」, 第14回日本救急看護学会学術集会, 東京, 2012年11月2日
- ②明石恵子, 稲波泰介, 東海救急看護研究会：救急医療現場における心理的・社会的問題への対応能力向上に向けた取り組み－東海救急看護研究会の紹介および事例検討, 第15回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会, 長久手市, 2012年10月13日
- ③明石恵子, 東海救急看護研究会：シンポジウム&事例検討「見逃していませんか？救急外来で出会う小児虐待」, 第8回東海救急看護研究会, 津市, 2012年3月3日
- ④前田貴彦, 上杉佑也, 明石恵子, 白井千津,

大原美佳, 奥田晃子, 佐藤ゆかり, 角由美子, 森木ゆう子：救急看護師教育システム開発に必要な救急隊との連携－社会的・倫理的問題に対する救急隊の認識と現状－, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月21日

- ⑤上杉佑也, 前田貴彦, 明石恵子, 白井千津, 大原美佳, 奥田晃子, 佐藤ゆかり, 角由美子, 森木ゆう子：救急看護師教育システム開発に必要な救急隊との連携－社会的・倫理的問題に対する救急隊の対応と教育－, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月21日
- ⑥鈴木里美, 太田有亮, 稲波泰介, 白井千津, 前田貴彦, 森木ゆう子, 明石恵子：救急医療の社会的・倫理的問題及びクレームに対する看護師の認識と対応の現状（その1）, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月21日
- ⑦鈴木里美, 太田有亮, 稲波泰介, 白井千津, 前田貴彦, 森木ゆう子, 明石恵子：救急医療の社会的・倫理的問題及びクレームに対する看護師の認識と対応の現状（その2）, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月21日
- ⑧山口弘子, 明石恵子, 白井千津：交流セッション「救急医療現場における社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた方略－事例で考えよう学会交流第2弾」, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月21日
- ⑨明石恵子：交流セッション「実践例から学ぶ臨床看護実践力を高める教育方法」話題提供 救急医療現場における社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた事例検討会, 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸市, 2011年10月22日
- ⑩小倉久美子, 伊藤稔子, 明石恵子, 白井千津, 東海救急看護研究会：看護企画・事例検討 救急医療現場における社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた取り組み－東海救急看護研究会の紹介および事例検討, 第12回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会, 名古屋市, 2010年11月7日
- ⑪白井千津, 明石恵子, 奥田晃子, 角由美子, 小倉久美子, 大原美佳, 伊藤稔子, 山口弘子, 笠原真弓：交流集会I 救急医療現場における社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた方略－事例検討の試みから, 第12回日本救急看護学会学術集会, 東京, 2010年10月29日

6. 研究組織

(1)研究代表者

明石 恵子 (AKASHI KEIKO)
名古屋市立大学・看護学部・教授

研究者番号：20231805

(2) 研究分担者

臼井 千津 (USUI TIZU)

愛知医科大学・看護学部・教授

研究者番号：80223535

前田 貴彦 (MAEDA TAKAHIKO)

三重県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：60345981

森木 ゆう子 (MORIKI YUKO)

摂南大学・看護学部・講師

研究者番号：70374163

(3) 研究協力者

伊藤 稔子 (ITO TOSHIKO)

岐阜大学医学部附属病院・看護師長

大原 美佳 (OHARA MIKA)

三重大学医学部附属病院・看護師

小倉 久美子 (OGURA KUMIKO)

名古屋掖済会病院・看護師長

奥田 晃子 (OKUDA AKIKO)

名古屋第二赤十字病院・看護係長

笠原 真弓 (KASAHARA MAYUMI)

浜松医療センター・看護師

角 由美子 (SUMI YUMIKO)

名古屋第二赤十字病院・看護師

山口 弘子 (YAMAGUTI HIROKO)

名古屋大学医学部附属病院・看護師長